

書評

坂井建雄 監訳
小林 靖・小林直人・市村浩一郎 訳

グラント解剖学図譜
英語版 CD-ROM 付 第5版

日本医科大学大学院教授・生体制御形態科学

小 澤 一 史

大学医学部・医科大学における解剖学実習は、医学部教育の根幹をなす極めて重要な実習の一つである。解剖実習では、教師は基本的事項、重要事項の道標を灯し、学生はそれをもとに自らの努力で、精緻に富み、機能と合理的に対応する人体の構造を学び、身につけていく。したがって、自ら学ぶ際の、信頼できるテキスト、アトラスとの出会いが、その後の学習効率を高めることはいうまでもない。

今回、グラント解剖学図譜第5版の日本語版が出版の運びとなった。“Grant's Atlas of Anatomy”は、世界における最も優れた、詳細なスタンダード解剖学テキストとして、大きな貢献を残してきているが、その図譜もまた極めて優れた本である。本書の特徴は、なんといっても図が見やすく、豊富なことである。しかも、その図が多角的な視野から描かれており、人体構造を三次元的に理解するための大きな手助けとなる。このこ

とは、人体解剖という目の前の「三次元」を考えるうえで、極めて有用なツールとなることを意味している。近年の解剖学は、ただ身体の構造を知るだけの学問の概念をはるかに超えて、解剖学が臨床医学を学ぶ際の重要な課題解決の基盤となることを理解するのが大切なことと認識されている。その意味から、解剖学教育の現場では、すでにX線造影像、血管造影像、CT、MRIといった画像が紹介され、実際の解剖による観察との対比も積極的に行われている。その現状にぴったり当てはまるように、本書では随所にこれらの画像が加わり、まさに基礎医学と臨床医学を連結する立場も示され、学生に対し、医学部において解剖学を学ぶことの意味、意義を自然と伝えている点が高く評価される。

さらに、体表解剖についての記載がきちんと示され、昨今、検査や画像データに頼る傾向のある医療に対し、あくまでも基本は「視

診、触診、打診、聴診」であることを伝えようとしている意図が感じられ、まさにピリッと効いた香辛料的な役割を果たしている。各図の説明文は、簡潔で無駄がなく、要点をきちんとまとめており、違和感なく頭に入ってくる。これだけで十分に満足の内容であるが、付録のCDが思わず「おおっ」と思う充実と楽しさを含んでおり、解剖学を学ぶということの「楽しみ」を提示している。本書の監訳者である坂井建雄教授、訳者の小林靖教授、小林直人教授、市村浩一郎博士は解剖学者として気鋭のメンバーであり、また解剖学教育、医学教育に対する深い情熱を持った執筆陣である。各氏とも強い熱意と学生に対する深い愛情のもとに本書の日本語版出版に力を注いだ様子が読み取られ、その努力に心からの敬意を表すものである。このグラント解剖学図譜は、医学生のみならず研修医、専門医にも多大な情報を提供することは疑いもなく、心から推薦する次第である。まさに、「よい本に出会ったときの至福の喜び」である。

〔A4変型 頁896 2007年
定価15,750円(本体15,000
円+税5%) 医学書院刊〕

* * *